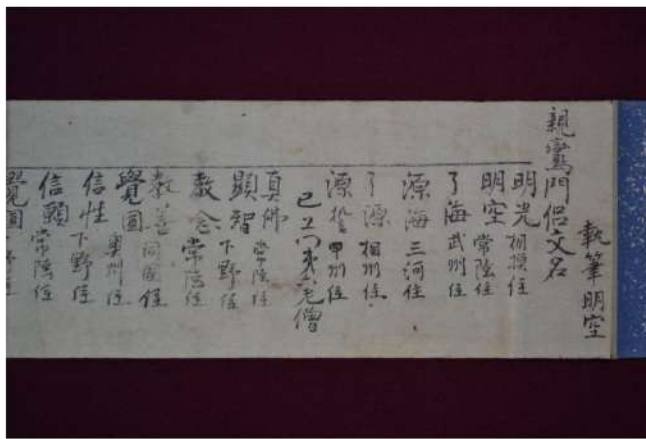


出羽国内陸地方における初期浄土真宗の動き—長井門徒— (2)

村山 正市

『親鸞聖人門侶交名牒』には順信の弟子に道信がおり、長井明源道信（導信）・鹿島順慶・成田信性、小松道圓等が中心になり、上京してきた各地からの門徒の有力者を取りまとめ、覚如上人に唯善上人との義絶解除を求める連署状を作成し署名した者は 40 余名にも及んだ。



親鸞聖人門侶交名牒

『存覚袖日記』16 康安元年（1361）の条には鹿島門徒の指導者信海から以下の系譜が
しるされている。

信海—【夕毛山】信明—樂信

-【長井吉田】 明信—導信【明源也】—導雲

-【シツノ瀨】 稱念—信寂

一【小松】信佛一圓證

-【砂田スナコタ】道圓—誓信

【鳴】ナル田-信性-伊與

一慶願

信海の弟子明信が住んでいた長井吉田とは、出羽国の長井庄吉田郷のことで、現在の山形県東置賜郡川西町吉田と考えられ置賜地方には、初期の浄土真宗が布教されていた。「小松信佛」は川西町小松にあたろう。同じく川西町洲島に砂田の地名があり「道圓」が居住した場所と考えられ、「タモ山信明」は山形県村山市櫛山と考えられる。そのころには村山地方にも真宗の流れが伝播していたと考えられる。長井の導信の弟子と考えられる道空（導雲）が、康永3年（1344）には上洛して覚如・存覚父子の不和を解